

温故知新

近江日野商人館(大窪)、近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」(西大路)の開館時間は、午前9時から午後4時まで、休館日は毎週月・火曜日、祝日の翌日、年末年始になります。入館料は、大人個人三〇〇円、大人団体(三〇名から)二五〇円、小・中学生一二〇円です。ぜひご来館ください。

中山地区にある金剛定寺は、中世では蒲生氏との関係が深く、江戸時代には幕府旗本の関氏の崇拜を受け、堂宇の再建等が行われました。今年度、重要文化財の聖観音立像などが安置された本堂の修理が行われていますが、この本堂も関氏によって建立されたものです。今回は地元でもあまり知られていない金剛定寺本堂と関氏の関わりについて紹介します。

金剛定寺の由緒

寺伝によると、開基は聖徳太子で、8世紀の末には東大寺別院の華嚴宗寺院として一帯に38の塔頭や三重塔が建立されていたとされます。さらに、文永7年(1270)に園城寺の僧、実盛が座主となると、法相・天台・真言宗兼学の寺院として整備されました。

その後、永暦元年(1160)、暦応2年(1339)、文龜3年(1503)と、兵火などにより荒廃しますが、その度に再建されました。しかし、元龜2年(1571)の兵火による荒廃後は復興が進まず、天正19年(1591)に本尊や諸像を納めるために1、2棟の堂宇が建立されたのみであったと伝えられます。

現在の伽藍が整えられたのは江戸時代のことです。その復興には領主である関氏の援助がありました。

「関氏」について

関氏は中世、伊勢国鈴鹿郡を治めた一族で、戦国時代の末には関一政が蒲生氏郷の与力(大名)として、白河城主を務めました。氏郷没後は独立した大名として信濃国飯山や伊勢国龜山などを経て、慶長15年

(1610)、伯耆国日野(現鳥取県)5万石の大名となりました。ところが、元和4年(1618)、家中の争いにより領地は没収となりました。しかし、養子の氏盛が幕府旗本に取り立てられ、中山ほか5千石の旗本として存続することが許されました。以後、関氏は11代続き明治時代を迎えました。

この間、領地支配の中心となった陣屋は金剛定寺の北側山麓、現在天理教の敷地となっている場所に設けられました。そこには江戸から家臣が派遣され、年貢の徴収等の処理にあたりました。

金剛定寺本堂の瓦について

記録によると現在の本堂は、文化2年(1805)に、8代目の関盛恭によって「観音堂」として再建されました。

た。堂内の龍の天井絵に添えられた墨書にも「文化己丑(2年)」とあることから、今から212年前に建立されたことは明らかで、しかも再建という文言から、それ以前にも何らかの建物、あるいは跡地や伝承があったことがわかります。

また、本堂の屋根の軒先には、再建当初の物と考えられる「鉄砲菱紋」の丸瓦が葺かれていました。これは、隆讚寺(中山東)や光明院(中山西)に残る関氏歴代の位牌にも使われています。関氏の代表的な家紋は「揚羽蝶」ですが、揚羽蝶と鉄砲菱の両方があしらわれた位牌が複数残っています。今後、更なる検証が必要ですが、鉄砲菱が中山の関氏ゆかりの文様である事は間違いないでしょう。

今回の修理では、こうした歴史を後世に伝えるため、一部に元の瓦が再利用されています。



軒先で再利用された「鉄砲菱紋」軒丸瓦

「日野駅再生プロジェクト」が動き出します。100年の歴史を誇る現役木造駅舎の日野駅を未来につなごうと近江鉄道や日野駅利用促進活性化懇話会で協議をかさねてきましたがいよいよ駅舎の改修が始まります。現在の駅舎の骨組みなどをそのまま残し、外観は昭和40年代の雰囲気、内部は南半分を観光案内所と交流カフェに、北側を駅務室にします。多くの人を送り出し迎えた改札口はそのまま、その後、上りホームの建屋などの改築も予定しています。

日野駅が開業したのは明治33年、大正5年には複線化をするために駅が改修され現在の駅舎になりました。当時、改修に当たっては、住民の皆さんが寄付や用地の提供をされ、寄付金は工事費の約57%の4千円にもなりました。鉄道事業の実施は明治政府の官僚と日野商人4人が里口の「ふなや」という料理屋で会合し決められました(諸説あり)。「ふなや」の建物の一部は現在の内池東の集会所で今も活用されています。日野駅の改

修経費は町や国の財源だけでなく、ふるさと納税の制度を活用して寄付をお願いしています。目標は3年間で4千万円。住民税所得割の2割以下の寄付をいただきますと翌年の住民税等が2千円を超える額は軽減控除されます(つまり「自己負担」は2千円のみ)。

寄付のお願いはインターネットを使って全国に発信するとともに町民の皆さんやゆかりの方に広く呼びかけさせていただき、お陰様で、町内はもとより全国から寄付をいただいています。日野高校3年生の皆さんからは文化祭の収益金7万7千円をいただきました。寄付とともに「近江鉄道で通学した頃を懐かしく思い出します」「古いものを大切にするのはいいことです」「日野高校生すばらしい。卒業生としてとてもうれしい」など温かい気持ちも寄せられています。

町の歴史や文化を大切に住民の皆さんと協働し、まちづくりを進めることは「地方創生」の原点です。引き続きご支援とご協力をお願いします。

キリトリ

郵便はがき

5 2 9 1 6 9 0

日野町河原一丁目1番地
日野町役場
「住みよいまちづくりへの提案」係行



料金受取人払郵便



差出有効期限
平成29年3月
31日まで

(切手を貼らずに
お出ください)

キリトリ

アイデア・メッセージを お待ちしております



広報は、行政から皆さんへと情報をお伝えするだけでなく、皆さんからのアイデアやメッセージをいただき、まちづくりに活かしていくことも大切です。

誰もが住みやすいまちにしていけるためにも、皆さんと行政との声のキャッチボールを大切にしていきます。これからも皆さんの「声」をお待ちしています。

- 5、8、11、2月(3か月に1回)、「住みよいまちづくりへの提案」をお寄せいただくためのハガキを「広報ひの」に掲載します
- ハガキに限らず、電話・封書・FAXなどで受け付けていますので、ご意見をお寄せください

お願い

- 提案に対する回答を郵送させていただきますので、氏名・住所(番地まで)を必ずお書きください。(名前や番地の掲載がない場合などは、匿名扱いとなり、お返事できませんので、ご了承ください)
- 寄せられた提案は、町長はじめ担当課職員が熟読させていただきます。出来る限り町政に生かせるよう、十分に検討したうえで回答させていただきますので、回答までに時間がかかることがあります。
- お寄せいただいた提案は、「広報ひの」に掲載させていただきます。その際に氏名の掲載はいたしません。
- 担当課ですぐにお答えできるような質問については、電話でお答えする場合があります。